



## 2024 年度新収蔵作品展 Present for You

わたしからあなたへ みんなから未来へ

2025 年 1/5(日) - 2/16(日)

町田市立国際版画美術館企画展示室2

### ごあいさつ

1987 年 4 月の開館以来、町田市立国際版画美術館は版画を中心とする美術館として、国内外の優れた版画作品と資料を収集・保存し、版画をテーマとする展覧会を開催してきました。また初心者から経験者まで幅広い層を対象とした実技講座や、各種の版画制作用具を備えた工房とアトリエを制作の場として開放するなど普及活動も展開し、「見る楽しみ」と「作る楽しみ」を総合的に紹介してまいりました。こうした活動を評価いただき、近年は寄贈作品の点数も増加しています。

本展では 2023 年度下半期から 2024 年度上半期に新たに当館に収蔵された 1,370 点の中から主な作品約 60 点をご紹介します。今後も、古今東西の版画の歴史が多面的・総合的に理解できる質の高いコレクションの形成を目指し、継続して収集活動につとめてまいります。

「2024 年度 新収蔵作品展—Present for You」とは、当館に収蔵される作品が、貴重な文化遺産として大切に保管され、未来へと伝えるべきものであり、同時に市民ひとりひとりから未来へのプレゼントでもあるという気持ちをこめたタイトルです。本展を通じて、当館の活動がさまざまな人々によって支えられ、市民ひとりひとりも美術館のサポーターであるということをご理解いただければ幸いです。

2025 年 1 月  
町田市立国際版画美術館

リストの項目は下記の通り: 作者・題名・英文題名・制作年・サイズ(mm)・技法・ご寄贈元

※会場構成の都合により、作品展示の順番はリストの順番と一部異なります。

### 吉田正三 YOSHIDA Masazo

1906(明治 39)-1972(昭和 47)

現在の足立区千住で江戸時代から続く「千住絵馬屋・吉田家」の七代目として生まれる。1931 年に新興版画会展や日本版画協会展に出品。翌 1932 年に小野忠重や柴秀夫らと「新版画集団」を結成して、定例の展覧会やテーマ展、機関誌『新版画』などに作品を発表した。出品作はこの時期制作された木版画で、いずれも同時代の画家や版画家がしばしばモチーフとして選んだ工場や貨車、開発前の東京郊外を描いた作品。新版画集団解散後は、その後継グループとして結成された「造型版画協会」には参加せず、木版画制作からも遠ざかった。絵馬屋を営みつつ「絵馬寿」の号で俳句を詠み、1968 年に句集『千住』を刊行した。

1  
鐘紡裏 View behind Kanebo  
1932(昭和 7) 230×300 木版

2  
丘 Hill  
1932(昭和 7)-1935(昭和 10)  
215×290 木版

3  
貨車のある風景  
Scenery with Freight Cars  
1932(昭和 7)-1935(昭和 10)  
238×330 木版

#### 1~3 吉田晃子氏より寄贈

### 小野忠重 ONO Tadashige

1909(明治 42)-1990(平成 2)

現在の東京都墨田区出身の版画家、版画史研究者。早稲田実業学校に通いつつ水彩画研究グループ「蒼原会」のメンバーとして活動。この会に参加していた版画家の山口進や永瀬義郎の著書『版画を作る人へ』などから版画の魅力を教えられる。卒業の頃には左翼演劇への関心を深め、自らも演劇活動にのめり込む。その後日本プロレタリア美術家同盟のメンバーとなり 1929 年と 30 年の大展覧会に出品。1932 年に 20 代前半の若者を中心に 22 名で「新版画集団」を結成、「版画の大衆化」を目標に版画運動を始める。1936 年 12 月にこのグループを解散し、翌 1937 年に「造型版画協会」を結成して「絵画的な充実」を目標に活動した。戦後は版画制作と共に古今東西の版画史を研究し、多くの著作を上梓した。

4  
瓦斯工場 Gas Factory  
1933(昭和 8) 475×603 木版

5  
露地 Outdoor Field  
1933(昭和 8) 490×610 木版

6  
将軍(妄想) General (Delusion)  
1934(昭和 9) 610×470 木版

7  
雌性とジャズ Femininity and Jazz  
1934(昭和 9) 500×613 木版

8  
金を求める人々 People Looking for Money  
1934(昭和 9) 468×610 木版

9  
休日 Holiday  
1938(昭和 13) 650×990 木版

10  
鴉の町(名寄) The Town of Nue (Nayoro)  
1938(昭和 13) 504×626 木版

11  
少年 A Boy  
1938(昭和 13) 306×244 木版

12  
少年 A Boy  
1950(昭和 25) 272×216 木版

13  
出発 Departure  
1950(昭和 25) 304×353 木版

### 「新版画集団」「造型版画協会」 展覧会ポスター

「新版画集団」は 1932 年に小野忠重や吉田正三らの若者を中心に 22 名で結成された版画グループ。「版画の大衆化」を掲げて活動した。また、「造型版画協会」は「集団」のメンバーであった小野忠重や水船六洲(1912-1980)ら 5 名が、新たに「絵画的充実」を掲げて結成した版画グループ。これらのグループは、定例の展覧会やテーマを設けた企画展を開催する際に、メンバーが木版やリグラフのポスターを制作した。それらは展覧会の出品作と同様に、それぞれの作者の表現と深くかかわる内容で、かつ個性的な作品となっている。以下に本展出品ポスターの作者について解説。

藤牧義夫(1911-1935 消息不明)は新版画集団展のポスターをしばしば制作した群馬県館林出身の版画家。都会の現実に対する不安と期待、亡き父親への想いなどを織り込んだ木版画を制作した。

水船六洲は広島県呉出身。東京美術学校で彫刻を学びつつ版画の制作を開始した美術家。形や色彩といった造形の探求を第一義とする木版画を制作した。

清水正博(1914-2011)は東京下谷出身の版画家で、東京の風景や風俗を木版画に大胆に表現した。《造形版画協会第一回展ポスター》はデカルコマニー(転写法)によるイメージを組み入れた作品で、シュルレアリスムへの関心が見られる。

斎藤清(1907-1997)は福島県会津出身で、造型版画協会展の一般公募に出品し、その後会員となった版画家。戦前は彫りや摺りを工夫して、独自のマチエール(質感)の木版画を制作した。

14 藤牧義夫 FUJIMAKI Yoshio  
第1回新版画集団展覧会ポスター  
Poster for the 1st Shinhanga Shudan  
Exhibition  
1932(昭和7) 537×268 木版

15 藤牧義夫 FUJIMAKI Yoshio  
新版画集団第2回展ポスター  
Poster for the 2nd Shinhanga Shudan  
Exhibition  
1933(昭和8) 552×270 木版

16 水船六洲 MIZUFUNE Rokushu  
新版画第3回展ポスター  
Poster for the 3rd Shinhanga Shudan  
Exhibition  
1933(昭和8) 548×335 木版

17 小野忠重 ONO Tadashige  
新版画集団小品展ポスター  
Poster for an Exhibition of Small  
Prints by Shinhanga Shudan  
1934(昭和9) 513×406 木版

18 藤牧義夫 FUJIMAKI Yoshio  
新版画集団4回展ポスター  
Poster for the 4th Shinhanga Shudan  
Exhibition  
1934(昭和9) 549×265 リトグラフ

19 藤牧義夫 FUJIMAKI Yoshio  
版画アンデパンダン展ポスター  
Poster for the Independent Exhibition  
of Print Art  
1934(昭和9) 394×273 リトグラフ

20 清水正博 SHIMIZU Masahiro  
造型版画協会第1回展ポスター  
Poster for the 1st Zokei Hanga  
Kyokai Exhibition  
1937(昭和12) 718×523 木版

21 水船六洲 MIZUFUNE Rokushu  
3回造型版画展ポスター  
Poster for the 3rd Zokei Hanga  
Kyokai Exhibition  
1939(昭和14) 595×310 木版

22 斎藤清 SAITO Kiyoshi  
第5回造型版画展ポスター  
Poster for the 5th Zokei Hanga  
Kyokai Exhibition  
1941(昭和16) 590×285 リトグラフ

4~22 小野近士氏より寄贈

野見山暁治 NOMIYAMA Gyoji  
1920(大正9)-2023(令和5)  
福岡県生まれ。東京美術学校油画科入学後、在学中に春陽会で入選、応召を経て復員。1952年に渡仏。在仏中にサロン・ドートンヌの会員となり、58年には安井賞を受賞。64年に帰国し、68年から東京藝術大学で教鞭を執る。92年に芸術選奨文部大臣賞、96年に毎日芸術賞を受賞、2000年に文化功労者に選ばれ、14年に文化勲章を受章した。

初期は故郷の炭鉱のボタ山や人物をモチーフにキュビズムの影響が濃い油彩画を手がけ、フランス滞在期を経て徐々に抽象化を進めた。身近な風景や事物から着想を得て、自身が捉えたイメージを大胆に再構成し、形態と色彩が入り混じる独自の画風を確立した。

版画制作は1965年から始め、刷り師との共同作業で銅版画、リトグラフ、スクリーンプリント、モノタイプを手がけた。

23  
ポポロ氏の肖像  
Portrait of Mr. Popolo  
1978(昭和53) 190×160 エッチング

24  
ありのまま As It Is  
1995(平成7) 550×425 スクリーンプリント

25  
午後の出会い Afternoon Encounter  
1994(平成6) 232×325 エッチング、ドライ  
ポイント、アクアチント

23~25

一般財団法人野見山暁治財団  
山口千里氏より寄贈

平野杏子 HIRANO Kyoko  
1930(昭和5)生まれ  
神奈川県出身の美術家。1961年から洋画家の三岸節子のもとで学び、1969年には国内の女性画家で結成された潮展の創立に参加。近年まで油画、版画、立体など多彩かつ旺盛な制作を続けている。町田市立国際版画美術館の建つ芹ヶ谷公園に設置された彫刻作品のひとつ、《トキオコシ》の作者でもある。

出品作は多色刷りのスクリーンプリントによるもの。日本の先史時代や古代に取材したテーマが、簡潔なフォルムと鮮やかな色によって構成されている。前者が装飾的な背景によって際立つ作品も目をひく。

26  
縄文へのオマージュ(A)  
Homage to Jomon (A)  
1991(平成3) 500×650 スクリーンプリント

27  
縄文へのオマージュ(B)  
Homage to Jomon (B)  
1991(平成3) 650×500 スクリーンプリント

28  
縄文へのオマージュ(C)  
Homage to Jomon (C)  
1991(平成3) 500×650 スクリーンプリント

29  
弟橘媛(赤)  
Oto Tachibana Hime (red)  
2001(平成13) 480×370 スクリーンプリント

30  
弟橘媛(グリーン)  
Oto Tachibana Hime (green)  
2001(平成13) 480×370 スクリーンプリント

31  
弟橘媛(オレンジ)  
Oto Tachibana Hime (orange)  
2001(平成13) 480×370 スクリーンプリント

26~31 平野杏子氏より寄贈

池田満寿夫 IKEDA Masuo  
1934(昭和9)-1997(平成9)  
旧満州生まれ。1952年に高校卒業後、画家を目指し上京。師事した瑛九が色彩銅版画の制作を勧めたことで、本格的に版画制作に進んだ。1957年に版画制作を開始後、すぐに東京国際版画ビエンナーレ展に入選し、その後も受賞

を重ねた。1965年には日本人初となるニューヨーク近代美術館での個展が開催され、1966年にはヴェネツィア・ビエンナーレ展で国際大賞を受賞し、国際的な活動を展開した。

出品作は、版画を制作しはじめた1950年代後半から、国際的に評価が高まった1960年代までの作品。寄贈を受けた『私の処女』は、師である瑛九への献辞が記されており、両者の関係性が分かる貴重な版画集。池田の死後、パートナーであった佐藤陽子氏とM&Y事務所が管理していたコレクションからご寄贈いただいた。

32-1

『私の処女』詩 *My Virginity-Poem*  
1958(昭和33) 236×158 エッチング、印刷

32-2

『私の処女』扉 *My Virginity -Front Page*  
1958(昭和33) 60×97 エッチング

32-3 『私の処女』1 *My Virginity-1*

1958(昭和33) 162×77 エッチング

33

鏡の前の女 *Woman in front of the Mirror*  
1964(昭和39) 365×340 ドライポイント、ルーレット、エッチング

34

欲望の原理(赤) *The Principle of Desire (Red)*  
1966(昭和41) 455×408 ドライポイント、ルーレット、メジチント、ビュラン

### 32～34 佐藤陽子氏より遺贈

田中誠一 **TANAKA Seiichi**

1950(昭和25)-2022(令和4)

東京生まれ。集英社写真部に在籍した後、1973年に阿部出版に移籍、雑誌『版画芸術』専属カメラマンとして、芸術家の肖像写真を担当した。独立後も芸術家のポートレートや制作風景写真を主な仕事とし、写真展を開催した。

出品資料は田中が主に『版画芸術』のために撮影した版画家の肖像写真の紙焼きである。この度1970年代から近年に至るまで、日本のみならず海外作家を含め111人に及ぶ芸術家の肖像写真が寄贈され、本展ではその一端を紹介する。芸術家たちの素顔を伝える貴重な資料として、今後調査、活用していきたい。

35

版画家肖像写真

Portrait of Printmakers

1970代-2020代 写真

### 35 伊佐恵美子氏より寄贈

坂東壯一 **BANDO Soichi**

1937(昭和12)生まれ

香川県出身の銅版画家。独学で銅版画を始め、1963年にはエッチングとアクアチントを組み合わせた色彩作品で日本版画協会賞を、1965年には山本鼎賞を受賞する。以降は色彩から離れ、モノクロームで制作するようになる。エッチングの特性を生かし、格調高い独自の幻想世界を生み出し続けている。当館では展覧会「幻想のフラヌール—版画家たちの夢・現・幻」(2024年6月1日～9月1日開催)にて作品群を紹介した。

出品作は季節を擬人化した作品。宙に浮かぶ男性の頭部は神秘的かつ精緻に描写されている。

36

秋の声 *Voices of Autumn*

1987(昭和62) 313×206 エッチング、アクアチント

利涉重雄 **RISHO Shigeo**

1948(昭和23)生まれ

千葉県出身の銅版画家。グラフィックデザイナーとなった後、独学で銅版画の技法を学んだ。1984年にはノルウェー国際版画ビエンナーレでビエンナーレ賞を受賞し、翌1985年にはロッキンフォード国際版画ビエンナーレで買上賞を獲得するなど、数々の国際的な版画コンクールで評価されている。国内では1979年から2022年まで日本版画協会展に出品。また、2012年には「東京都美術館セレクション版17」、2000年には「横浜美術館コレクション展横浜ゆかりの作家達」に出品している。

出品作は、想像上の空間に広がる隆起物と、その裏の間に建つ人工物が描かれている。漆黒の背景は宇宙空間や深海を思わせる。

37

昂 *Kou*

1985(昭和60) 365×600 エッチング、アクアチント

柄澤齊 **KARASAWA Hitoshi**

1950(昭和25)生まれ

栃木県日光市出身。1974年、創形美術学校研究科版画課程終了。日和崎尊夫に師事して木口木版を学ぶ。現代木口木版の第一人者として活躍するかたわら、書籍の装丁やオリジナルコラージュ、ボックスオブジェの制作なども手がける。当館では「森羅万象を刻む—デューラーから柄澤齊へ」(2016年)、「THE BODY—身体の宇宙—」展(2019年)、「幻想のフラヌール—版画家たちの夢・現・幻」(2024年6月1日～9月1日開催)などで作品を紹介している。

出品作のうち、『死と変容』シリーズは初期の代表作のひとつ。『四重奏』は寄贈者の縁戚であるコレクターの牧子夫人がヴァイオリニストであったことにちなんで収集されたもの。

38

『死と変容 I』4 夢または流刑

*Death and Transfiguration I-4*  
Dream or exile

1988(昭和63) 156×211 木口木版

39

『死と変容 II』11 洪水 B

*Death and Transfiguration II-11*  
Deluge B

1990(平成2) 254×204 木口木版

40

『死と変容 II』1 滴

*Death and Transfiguration II-1*  
Drop

1990(平成2) 160×60 木口木版

41-1

『四重奏』I *Quartet I*

1991(平成3) 360×245 木口木版

41-2

『四重奏』II *Quartet II*

1991(平成3) 360×245 木口木版

41-3

『四重奏』III *Quartet III*

1991(平成3) 360×245 木口木版

41-4

『四重奏』IV *Quartet IV*

1991(平成3) 360×245 木口木版

36～41 齋藤洋氏より寄贈  
(田村洋一・牧子コレクション)

## 多賀新 TAGA Shin

1946(昭和 21)生まれ

北海道出身の版画家、画家。1970 年から銅版画を独学し、精力的な制作と発表を始めた。近年も鉛筆画を中心とした制作活動を行っている。また多賀の銅版画は、1987 年に春陽堂の江戸川乱歩文庫の表紙に採用されており、出品作は『黒蜥蜴』を飾っている。

本作を含め、多賀作品に散見される人体が溶け合うかのような、あるいはその各部位が増殖したかのようなモチーフは、見る者のうちに様々なイメージを喚起する。これらは私淑していたハンス・ベルメールのライトモチーフが、多賀の精神世界で変容したものともみなせるだろう。

42

闇からの追放

Purge from Darkness

1973(昭和 48) 365×220 エッチング、アクアチント

### 42 越水茂氏より寄贈

## 門坂流 KADOSAKA Ryu

1948(昭和 23)-2014(平成 26)

京都出身の版画家、イラストレーター。1968 年に東京藝術大学油絵科入学。1973 年から鉛筆・ペン画での制作活動をはじめ、主に本の装画や雑誌の挿絵を手がけた。また 1985 年頃から独学でエングレーヴィングの技法を習得し、制作の中心とした。

出品作は、『山と溪谷』誌に 1997~2002 年に連載したエッセイ「山の肖像」のための水彩画のひとつ。第752号(1998 年 3 月発行)掲載の第 2 回「八ヶ岳・赤岳」に使われている。流麗な線が山の姿だけでなく、空気の流れも表しているかのようである。

43

冬の岩塊(赤岳稜線)

Masses of Rock in Winter (the Ridge Line of Mount Aka, Yatsugatake)

1997(平成 9) 206×353 水彩

### 43 荒秀雄氏より寄贈

## 集治千晶 SHUJI Chiaki

1973(昭和 48)生まれ

集治千晶は京都出身の美術家。1998 年に京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画修了。多数の個展・グループ展のほか、海外での展示にも積極的に参加している。2013 年度には当館で公開制作をおこなった。近年は銅版画に加え、モノタイプ、オブジェ、水彩画、ガラス絵なども手がけている。

出品作は《人形遊び》のシリーズからの 2 点。「人形」あるいは「ヒトガタ」は、それ自体に生命を感じながらも自己を投影してしまふ不思議な存在として、作者が取り組み続けているテーマである。

44

人形遊び—鏡の中

Playing with Dolls - in the Mirror

2013(平成 25) 795×595 エッチング、アクアチント、スピットバイト、ソフトグランド、ドライポイント

45

人形遊び—カーテンの奥

Playing with Dolls - behind the Curtain

2013(平成 25) 795×595 エッチング、アクアチント、スピットバイト、ソフトグランド、ドライポイント

### 44~45 集治千晶氏より寄贈

## エミール・ツピンデン ZBINDEN, Emil 1908-1991

スイス・ベルン州ニーダーエンツ生まれの版画家。1928 年からタイポグラフィとして働き、その傍でベルリンのノイケルン美術工芸学校夜間部、ライプツィヒの王立版画印刷アカデミー(現・版画製本芸術大学)で版画を学ぶ。プロレタリア革命芸術協会(通称:アツソ)のメンバーとして活動するも、ワイマール共和国の政情悪化を受けて 1931 年に帰国。スイスの農村、工場の風景や労働者を題材に木版画を制作し、1953 年に国際的な木版画協会「キシロン・インターナショナル」を創設し、初代会長を務めた。

出品作は、スイス・アルプスの溪谷に建設されたトゥジエ・ダムを表した木版画。リエンヌ川を堰き止める高さ 156 メートルのコンクリート・ダムの景観は、縦長の構図でダイナミックに表現されている。

46

リエンヌのダム Lienne dam

1959 524×265 木口木版

46

エリッヒ・シュトゥールトレーガー氏より寄贈

47

ギェルベッタールにて 2

In Gürbetal II

1941 248×357 木口木版

48

シャルナーグート

Tscharnergut

1965 245×502 木口木版

49

6 月、シュヴィンゲン(スイス相撲)

Month of June (Schwingen)

1971 163×209 木口木版

50

イカロス II Icarus II

1975 378×230 木口木版

51

日記 1980 Journal 1980

1980 200×200 木口木版

46~51

サムエル・ツピンデン氏より寄贈

## ジョアン・ミロ MIRÓ, Joan

1893-1983

スペイン・カタルーニャ州バルセロナ生まれのアーティスト。1924 年からパリのシュルレアリスム運動に参加。太陽や月、星、鳥といったモチーフを抽象的なフォルムで表現し、独特の絵画世界を展開した。東洋美術に高い関心を長年抱いていたミロは、1966 年に初来日を果たし、1969 年には大阪万博のパヴィリオンのために陶板壁画を制作した。

展示作は、1966 年に出会った詩人の瀧口修造と共作した詩画集『手づくり諺』のためのカラーリトグラフ。1930 年頃から版画の制作を本格化させたミロは、精力的な版画制作を戦後まで続け、その生涯で 2,500 点以上の作品を残した。本作は、7 か国語に翻訳された瀧口の詩に合わせて制作された色違いの版画 7 種類のうち、日本語版に付されたものである。

52

手づくり諺 My Proverb

1970 550×770 リトグラフ

## アントニ・タピエス TÀPIES, Antoni

1923-2012

スペイン・カタルーニャ州バルセロナ生まれのアーティスト。紙や紐、新聞紙を用いたコラージュ作品を手がけ、1948 年にスペインのシュルレアリストからなるグループ「ダウ・アル・セッ」に参加。1950 年代のパリで、絵具の厚塗りや大胆な筆遣いを特徴とする「アンフォルメル(不定型)」の作家に感化される。幼少期にスペイン市民戦争を経験し、フランコの独裁政権に対する抵抗や怒り、人間存在の生に関する命題を根源的なテーマとし、スペインにおけるアンフォルメルを牽引した。

出品作は、パリのマール画廊の版画工房が刷りを手がけた作品。エッチング、アクアチント、リトグラフの混合技法により、絵画を思わせる重層的なマチエール(質感)が探究されている。

53

手稿 Manuscript

1976 630×900 エッチング、アクアチント(合成樹脂版)

**ブルース・オノブラクペヤ**  
**ONOBRAKPEYA, Bruce**  
**1932 生まれ**

ナイジェリア南部・デルタ州出身のアーティスト。アフリカ・ベロ大学美術学部で学び、ウルホボ族の伝統文化やキリスト教に題材を得たレリーフ彫刻や版画を制作した。ナイジェリアの国民的芸術家で、1990年のヴェネツィア・ビエンナーレにブラック・アフリカとして初めて招聘され、それ以来テート・モダンをはじめ世界各地の美術館で個展が開催されている。

出品作は、現代的な建造物を背景に、ウルホボ族の伝統的な儀礼を思わせる衣装を身にまとった人々を配した作品。オノブラクペヤは版画の材料が入手しにくいナイジェリアで多くの技法を考案しており、本作は腐蝕液の代わりにアルルダイト(エポキシ樹脂)を塗布したプレートを用いる「プラストグラフィー」で制作された。

54

Ifiero II (b/w)

1982 675×510 ディープ・エッチング

**中島史子 NAKAJIMA Fumiko**

東京生まれのアーティスト。早稲田大学第一文学部で美術史を学んだ後、1990年にスペインに渡る。2004年までバルセロナを拠点に活動し、カタルーニャ州立バルセロナ美術学校、バルセロナ・トラバイ芸術学校などで銅版画の技法を習得。同地で漆細工や宝石学も学び、ジュエリーデザイナーとしても創作活動を行っている。

出品作は、銅版の腐蝕の深度、インクの粘度、ローラーの硬度の差を利用して色を詰め分ける一版多色刷り技法(ヘイター法)による作品。作家がバルセロナ美術学校銅版画科在籍中に開催した初個展(1992年、バルセロナ、ユネスコ)で展示された最初期の作品である。

55

怒濤 Wave

1992(平成4) 297×505 アクアチント、エッチング

**52~55 宮嶋美子氏より寄贈**

**ジョナサン・ボロフスキー**  
**BOROFISKY, Jonathan**  
**1942 生まれ**

アメリカ・ボストン生まれのアーティスト。絵画や彫刻、拾得品など多種多様なオブジェから構成するインスタレーションを発表し、1970年代に一躍注目を集めた。出品作は、社会問題や人間の根源的な命題をユーモラスなイメージに潜ませた「夢」シリーズの1点。切手を模したミシン目入りの紙にプリントされているのは、ボロフスキーが1986年に制作したドローイングである。西ベルリンの「ベルリンの壁」付近で滞在制作を行った時、彼は、壊れたフェンスから犬が「鳥たちの庭」に侵入し、1羽の鳥を口にくわえる夢を見たという。サイン横の数字は、彼が1969年から作品やメモに書き込み続けている「カウンティング」による番号。

56

ベルリンの夢(切手)

Berlin Dream Stamp

1991 328×240 ゼラチンシルバープリント

**フランチェスコ・クレメンテ**  
**CLEMENTE, Francesco**  
**1952 生まれ**

イタリア・ナポリ生まれのアーティスト。1980年代のイタリアで展開した新表現主義運動「トランス・アヴァンギャルディア」の代表的作家で、サンドロ・キア、エンツォ・クッキと共にイタリアの3Cと呼ばれる。1981年からニューヨークに移住し、アンディ・ウォーホル、ジャン・ミッシェル・バスキアら現地のアーティストと交友を深めながらも、民話や東洋思想に強い関心を寄せ、いずれの文化圏にも属さない独自の神秘的な絵画世界を展開した。

出品作は1984年に制作した油彩画を版画にしたもの。本作の刷りは、1962年以降ヘレン・フランケンサラーら名だたるアーティストと協働し、大判のエッチングを手がけてきたクラウンポイントプレス社の工房による。

57

空 Sky

1985 864×1499 スピットバイト、アクアチント、ソフト・グラウンド・エッチング、エッチング

**56~57 森一実氏より寄贈**

**塩田みはる**

**SHIOTA Miharu**

東京に生まれる。1970年に多摩美術大学油画科を卒業し渡仏。パリ大学の造形学部でリトグラフを学び、1973年、パリ国立高等美術学校(エコール・デ・ポゼール)のリトグラフのアトリエに受け入れられる。1977年頃、フランス・メゼールでスクリーンプリントのシンポジウムに参加し技術を学ぶ。パリ国立高等美術学校在籍時に、馬の動きをテーマとするリトグラフを制作。世界各国から留学した作家と交流し、作品を交換し合った(No.62は塩田が作品交換で入手した版画)。1980年に同校の版画科を卒業し、その後もパリで版画、墨絵等の制作を続ける。大沢昌助、ジョルジュ・ダイエーズ、アブラハム・ハダドに師事し、学校を離れてからも画業を続けていく上で助言を受けた。

58

1, 2, 3

One, Two, Three

1977(昭和52) 570×529 リトグラフ

59

三毛と逃げて行くグリーズ

Miké and Grise running away

1994(平成6) 370×490 リトグラフ、スクリーンプリント

**ジョルジュ・ダイエーズ**

**DAYEZ, Georges**

**1907-1991**

パリ生まれ。1924年から印刷工房を営む父のもとで銅版画やリトグラフを、アカデミー・ド・ラ・グランド・ショーミエールとアカデミー・ジュリアンで絵画を学ぶ。1926年、パリ国立高等美術学校のリュシアン・シモンのアトリエに受け入れられる。1928年、サロン・ドートンヌに初出品。キュビズムや同時代の前衛美術の影響を受けた。第二次世界大戦後、1947年にパリのゲネゴー画廊で初個展を開催。画家、版画家として名声を得て、フランス美術アカデミーのローマ賞の審査員等を歴任した。1967-1975年、パリ国立高等美術学校にてリトグラフのアトリエの教授を務め、世界中から数多くの作家を受け入れて指導した。

60

無題 Untitled 447×737 リトグラフ

**アブラハム・ハダド**  
**HADAD, Abraham**

**1937 生まれ**

イラク・バグダッド生まれ。1951年、ユダヤ人に対する迫害が強まっていたイラクを離れ、イスラエルの難民キャンプで生活する。1960年、テルアビブ美術学校を卒業。1965年、パリ国立高等美術学校のリトグラフのアトリエに入る。1969年、ダイエーズに招へいされ、同アトリエの第一助手となり、1977-1995年にはダイエーズの後任として教授を務める。写真製版を用いた大量生産ではなく、石に描画して手回しの印刷機で刷るリトグラフのプロセスを重視し、室内に集う家族や浴室の裸婦など、温かみのある人物画を手がけている。1996年から2002年までパリ国立高等美術学校の絵画の教授を務め、現在もパリと南フランスで創作活動をしている。

61

室内 Interior

1978 443×620 リトグラフ

**マノリス・シャロス**

**CHAROS, Manolis**

**1960 生まれ**

ギリシャ・キチラ島生まれのアーティスト。1978年から1982年までパリの国立高等美術学校にて絵画と版画を学び、1983年まで同地の国立高等装飾美術学校大学院にて視覚コミュニケーションを学ぶ。1984年、リトグラフの分野における活躍が期待され、国立美術学校から「財団賞」を授与される。1981年の初個展以来、ヨーロッパとアメリカで数多くの個展を開催。2000年にはプリンストン大学のアーティスト・イン・レジデンスに滞在した。制作する作品は絵画から版画、彫刻と多岐にわたるが、版画においては、故郷を想起させる海や野花などを主な画題とし、淡い色調を用いて幻想的な風景を描き出している。現在はアテネとキチラ島を拠点に活動している。

62

船 The Ship

1982 355×502 リトグラフ

58～62 塩田みはる氏より寄贈

2025年1月5日発行  
町田市立国際版画美術館  
〒194-0013  
東京都町田市原町田 4-28-1  
3,000部作成、1部あたりの単価12円  
(職員人件費を含みます)